第７０回道南医学会大会一般演題

服薬状況の意識調査

国立病院機構函館病院　薬剤部　○平　吹　真理子・大　泉　博　文
木　村　舞　貴・阿　部　桂　祐
髙　津　和　哉・廣　正　拓　也
鈴　木　秀　峰・後　藤　克　宣
向　井　博　也
同　　消化器科　間　部　克　裕

【要旨】
服薬指導時に、患者より服用方法について質問を受けることがある。その内容は、服用時点や食事との関係について、飲み忘れたときの対応についてなどである。今回、患者、医療従事者に対し服用方法についてアンケートによる意識調査を行った。

【キーワード】：服用時間、服用有無、残薬調整

【はじめに】
服薬指導時に患者より服用方法について質問されることがある。その中には、朝食後の薬を、食事を摂らないため服用していない場合もみられた。患者は通常服用方法の説明を受け、薬をもらっているが、どのように自己管理しているのか、また医療従事者は服用時点をどのように考えているかを把握するため意識調査を行った。

【対象と方法】
調査対象
当院入院中の患者 39 名（男性：16 名、女性：20 名、無回答：3 名）、当院看護師 172 名（回答率：71%）、調剤薬局 22 件（回答率：73%）
方法
服用方法についてのアンケート調査を行った。
アンケート項目
① 薬の理解度について（患者・調剤薬局）
② 服用時間について（患者・看護師）
③ 食事を摂らない場合の薬の服用有無（患者）
④ 調剤薬局での残薬調整について（患者）

【結果】
① 薬の理解度
44%の患者は、薬の説明を受けよく理解していると回答し、56%の患者がある程度理解していると回答していた。薬についてよくわからないと回答する患者はいなかった。調剤薬局では、薬の説明後、患者は薬についてある程度理解できている 81%、少しは理解できている 19%であった。
② 服用時間について
食後薬は、51%の患者・65%の看護師で「食後 30 分以内に服用する」と回答していた。44%の患者は「食後すぐ」に服用しているとの回答であった。（図 1） 食間の薬では、26%の患者・85%の看護師で「食後 2 時間」の回答であった。看護師回答の中で 1%（2 名）が食事中と回答していた。（図 2） 食前薬では 31%の患者、71%看護師で「食事前 30 分」の回答であった。（図 3） 患者回答で、食間の薬、食前薬ともに服用方法が不明であるが半数近く見られた。
③ 食事を摂らないときの服用有無
38%の患者で食事の有無に関係なく服用、23%で間食してから服用であった。18%（7 名）の患者で、服用しないと回答し、1 名は次の食後に合わせて服用と回答していた。（図 4）
④ 残薬調整について
46%の患者が残薬調整を全く知らないと回答していた。（図 5）

【考察】
今回の調査で、「食間服用」を食事中に服用すると回答する患者はいなかったが、看護師の調査結果より「食事中に服用する」と間違って認識している患者もいる可能性が考えられる。「食後薬」であるため、食事を摂取しないときは薬を服用しない患者がいることが分かった。糖尿病薬など食事に影響する薬以外は、状況に応じ服用方法の説明が必要であると考えられた。また、指示された服用時間に服用しないことで薬効に影響する可能性も考えられた。

「残薬調整」についてあまり知られていないため、自宅に薬が余っている可能性も考えられる。指導時に残薬の有無を確認することで残薬を少なくすることや残薬調整の情報提供、また服用の有無の確認もできるのではないかと考えられた。

服薬指導時に生活習慣や理解度を確認し、それに合わせた指導方法や１包化などの調剤方法を考えていく必要があると思われた。引き続き、患者に必要な情報を提供して必要な指導を行っていきたいと思う。

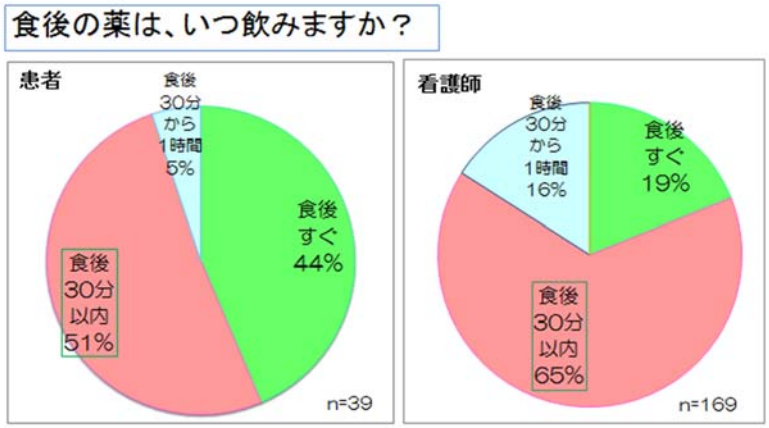

図１　食後薬

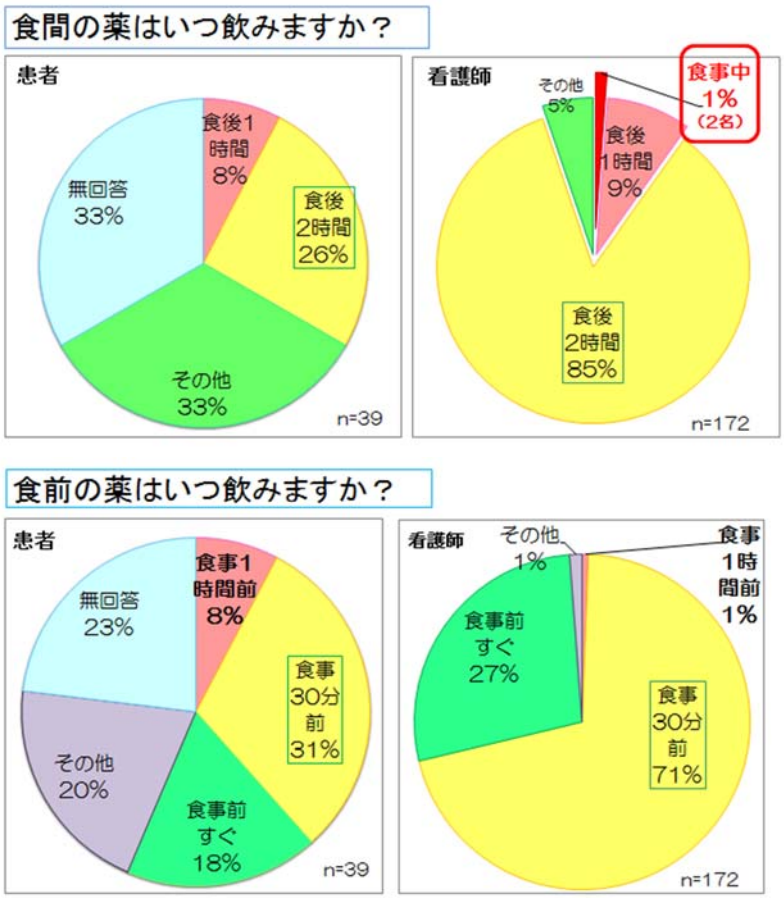

図３　食前薬

図３　食前薬

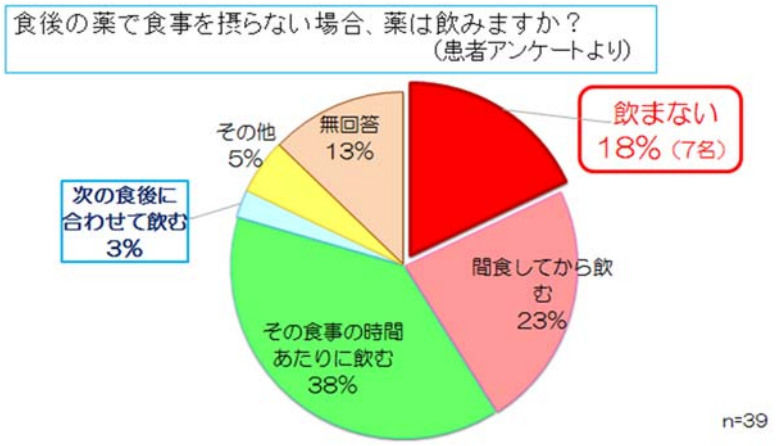

図４　食事摂取しない場合の服用有無

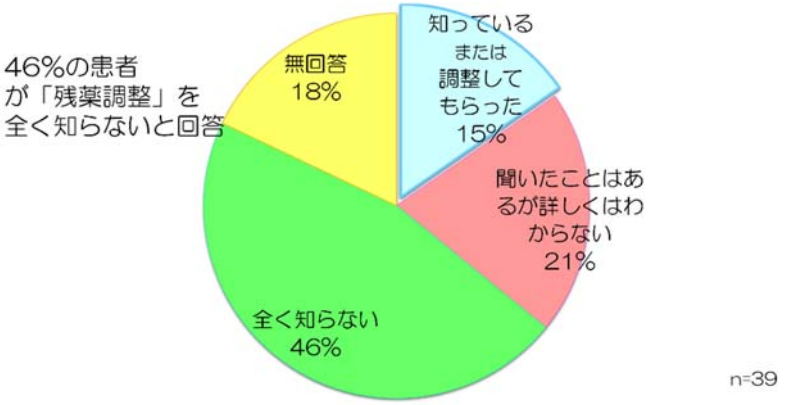

図５　残薬調整